

会報



発行所/岩手医科大学会報 〒020-8505 盛岡市内丸19-1 TEL 019-651-5111 FAX 019-624-8380 E-mail info@keiryokai.gr.jp URL http://www.keiryokai.gr.jp
 題字/三田定則 先生書 発行人/齋藤和好 編集人/前沢千早 印刷所/山口北州印刷

目次

✓ 会報本部だより……………	2	医療専門学校入試概要……………	22	お祝い・ご逝去・人事・編集後記……………	30
医学部同窓会だより……………	8	学術振興会研究助成・褒賞……………	23	✓「追悼特集」……………	31
歯学部同窓会だより……………	13	トピックス・学生だより……………	27	小野繁名誉学長・元会報会長を偲ぶ	
✓ 岩手医科大学入試日程……………	21	✓ 村井和夫 名誉教授ご逝去……………	30	✓ 医のこころ……………	66～60

Iwate Medical University

岩手医科大学

WEB OPEN CAMPUS

2020年8月7日公開
<http://www.imu-admission.jp>

WEBオープンキャンパスを開催します!

新型コロナウイルスの感染拡大により、参加者及び関係者の健康や安全面を最優先に考え、今年度は「WEBオープンキャンパス」に変更して開催させていただきます。

どなたでもご覧いただけますので、上記のURLまたはQRコードからぜひアクセスしてみてください。

- オンライン個別相談会
- 学生によるバーチャルキャンパス紹介
- 4学部紹介動画

etc...

*内容は変更になる場合があります。



岩手医科大学

入試・キャリア支援課 〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通1-1-1
 Tel: 019-651-5110(内線5105) Mail: nyushi@j.iwate-med.ac.jp

小野 繁 名誉学長・元圭陵会会長 お別れの会

令和元年 12月 22日（日） 盛岡グランドホテル



お別れの会の模様

お別れの会次第

開 会

黙 禱

発起人挨拶

お別れのことば

遺族代表挨拶

献 花

故小野 繁 岩手医科大学名誉学長・名誉教授・元圭陵会会長のお別れの会は、小野先生のご遺志により岩手医科大学白寿会にご献体なされたこともあり、ご葬儀は近親者の方々により済まされたことから、小野先生のご遺志とご家族のご希望により「お別れの会」として岩手医科大学医学部生化学講座同門の皆様、岩手医科大学・岩手県関係者、小野家ご遺族・関係者のご出席のものとしました。かなうちにも厳粛に執り行われました。

正面の祭壇は亡き先生のご遺影とともに各方面から献げられました蘭と菊の花で飾られました。

会は亡き小野先生のご遺徳を偲び、出席者全員で黙禱を捧げ、お別れの会の発起人である祖父江憲治岩手医科大学学長の挨拶、続いて小川 彰 学校法人岩手医科大学理事長、達増拓也岩手県知事、同門会を代表して太田 稔岩手医科大学名誉教授などの方々からお別れのことばがありました。

その後、ご遺族代表ご挨拶と続き、最後に出席者の献花で会が閉じられました。

■寄稿

小野 繁先生を偲んで

小野 繁先生の追悼特集を編むにあたり、皆様にご寄稿をお願い申し上げましたところ、小野先生のご遺徳を偲び、ありし日の思い出などをつづる文をお寄せいただきましたので、掲載させていただきました。

名誉学長小野繁先生を偲んで

学校法人岩手医科大学 理事長 小川 彰

小野繁先生、学生時代からご生前長きにわたり大変お世話になりました。

学生時代は生化学講座助教授としてお世話をいただきました。また、私が教授就任時、先生は医学部長でした。当時、他大学から教授を招聘する時は、医学部長自らわざわざ就任予定者の大学を訪れ、現地の医学部長と直接面会し、割愛を申し出、その後、両医学部長と当事者の3名で会食をするのが通例でした。小野先生自ら、来仙され東北大学の平規夫医学部長室にお越し下さったこと、その後、3人で料亭に行き食事を頂いたことが昨日のように思い出されます。ありがとうございました。

就任後は、若造の私に事あるごとに声をかけて下さいました。当時は、医学進学過程2年、医学専門課程4年の医学部教育が6年一貫教育へ変更途中でした。「基礎医学部分の2学年半までのカリキュラムは決まったから、その後の臨床の部分は君が担当するんだよ。」と、教授になりたてで右も左もわからない私にご指導をいただきました。そこで講座別編成の講義を臓器別編成に変え、臨床実習は診療参加型の実習へ変更するなど教育改革に取り組みました。医学部教育の変更は完成まで最低丸6年を要する息の長い作業であるばかりでなく、長年の講座制に慣れた先輩教授方が名を連ねる中での大変革であり、簡単な作業ではありませんでした。医学部長であった小野先生のきめ細かいサポートがあったからこそ出来たものであり、先生のご指導には今更ながら感謝に堪えません。

また、新米の若造教授に対し「君は将来教授会で医学部長として議長を務める事があるかもしれないのだから、私の教授会の采配をよーく見ておくように」との過分なありがたいお言葉まで頂きました。その経験が後の私にとってかけがえのない糧となりました。様々な経験ときめ細かいご指導によって教育され今日があります。ありがとうございました。先生の思い出は数限りなくあり、語りつくせるものではありません。お名残は尽きませんが、先生どうか安らかにお眠り下さい。天上より、先生が愛された岩手医科大学の将来を末永くお見守り頂きますことをお願い申し上げお別れの言葉と致します。

合掌

